



広報

No.283

～ 文教のまち西原 ～

にしはら

町の世帯・人口

(平成7年7月末現在)

世帯数	9,056世帯
人口	28,728人
男	14,599人
女	14,129人

7月の人口移動

出生	38件	死亡	9件
転入	75件	転出	88件
婚姻	12件	離婚	3件

編集・発行／西原町役場文化広報課(広報係) 西原町字嘉手苅112番地 ☎098(946)9846 印刷／(協)丸正印刷



△広場(馬場跡)中央で雌雄の綱がカヌチ棒で結ばれると同時に綱が曳かれた(棚原)。

＝12年ぶりに棚原で大綱曳き＝

棚原自治会(伊波時男会長)と棚原大綱曳き実行委員会(宮里佑吉会長)の主催による棚原大綱曳きが、8月7日午後、棚原のウマイー(馬場跡)で、「五穀豊饒」、「無病息災」を願って、12年ぶりに行われました。

部落内を道じゅねーの後、綱引き前に、伊波自治会長・宮城秀功実行委員会副委員長・宮城順棚原青年会長らそれぞれのあいさつ、平安恒政町長来賓あいさつがありました。

青年たちが、雨でぬかるんだ不安定な足場にも関わらず、旗頭もーらし、棒ガーエー、サーサーガーエーなどで氣勢をあげると、綱引きの雰囲気は大いに盛り上がりました。

広場中央で、シタクの乗った雌雄の綱がカヌチ棒で結ばれると同時に、いっきに綱が曳かれました。ドラや鉦が激しく打ち鳴らされる中、子どもからお年寄りまで汗だくになりながら懸命に綱を曳き、まつりは最高潮を迎えました。綱曳き後には再び旗頭もーらしや棒術ガーエー、空手演舞、沖縄角力などが行われ、宴は遅くまで続きました。棚原の綱曳きは1回だけ曳き、今回は下組が勝ちました。

この日は、町内各地でも綱引きが行われ、また、綱引き前に土砂降りの大雨が降ったにもかかわらず、大勢の人が見物に訪れ賑わいました。

なお、棚原では、旧6月15日のウマチー綱、23日に実施されるニーサー綱(2才綱。青年綱。幸地では24日に行う)、25日のウファチ綱の3種類の綱引きを、西原で唯一、戦前まではすべて実施していました。また、綱引きの見物人にウケーメー(おかゆ)を大盤振る舞いしないと、ウファチジナの御願は成就しないという言い伝えがあり、戦前は、この綱引きの時に振る舞われるウケーメー(おかゆ)をめあてに、首里、那覇方面からも多くの見物人が押しかけて来たということです。

今月の主な内容

- サワフジを囲んで西原を語るタベ
- 上原区民戦時避難体験ツアー
- 今月の人 一上原親子
- 町史だより No.5
- お知らせでーびる

として保存すると便利です

夏の夜にサワフジを囲んで

——サワフジを囲んで西原を語る夕べ——

いにしえびと ゆうきゆう 古人の悠久のロマンに思いを馳せ 未来の西原を大いに語りあう

樹齢四百五十年といわれる内間御殿のサワフジを囲んで、町民の親睦と地域活性化について語り合おうと、八月五日の夕方、内間御殿前の広場で、「サワフジを囲んで西原を語る夕べ」が開催され、約五百人が集いました。

これは、西原を愛する十三人が、町おこしのためにお互いの知恵(ソフィア)を出し合って具体的に行動していこ



△サワフジ(サガリバナ)を題材に、一夜の恋物語が踊られた(創作舞踊「さがりばな風」)

うと結成したFSC(フィロソフィアクラブ)西原を愛する会、赤嶺秀政会長)の主催によるもの。金丸(尚円王)第二尚氏王統の始祖)の内間御殿で四百五十年もの間、密やかに薫り続けてきたサワフジを愛でつつ、琉球舞踊や泡盛を堪能しながら、これからの西原をデザインしようと開催しました。

FSCの呼びかけに賛同した嘉手苺、小那覇、内間、掛保久の四自治会と町内の百三十人余りの個人・団体が協賛し、この夜の集いが実現しました。

月明かりの下、ライトアップされたサワフジをバックに、広場に作られた特設舞台では、「かぎやで風」(平山恵

美子他四名)や創作舞踊「銭掛の花」(岸本初子他二名)、「さがりはな風」(原作・石田穰一氏)沖繩キリスト教短大教授で県行政オンブズマン、新垣典子師範他三名)が上演され、子どもからお年寄りまで、サワフジからイメージされる幻想的な世界に魅了されました。また、城間精徳氏が内間御殿やサワフジを管理する中山家の紹介と中山家に対して記念品の贈呈を行い、福治義和氏(西原写真館)から平安恒政町長へ全国写真展で準特選に入賞した福治氏撮影のサワフジの写真贈呈が行われました。さらに、大山吉照氏による横笛演奏や石田穰一氏の小話「消えたまくら」などの様々な催しがあり、参加者はそれらをじっくりと堪能しました。

参加者らには泡盛や自治会が持ち寄ったジュシーや沖縄そば等の料理が振る舞われ、サワフジにちなんだカステラも紹介されました。広場の一角に設けられたコーナーでは、サワフジのテレホンカード、苗木なども販売されました。

主催のFSCは「大成功です。これをきっかけに、サワフジや内間御殿を拠点としたまちづくりの具体的な行動を展開していきたい」と話していました。

「本来の毛遊びみたいでとても楽しかった」(参加した会社員Aさん)、「行政や商工会といった枠組みを越えた、このような催しは記憶にない。おそらく西原では初めての取り組みではないか」(FSCスタッフ)といった声が、いたる所で聞かれたこの夜の集い。このような取り組みが、今後どのように文教のまち西原づくりに活かされるかが注目されるそうです。



△サワフジを囲んで西原を語ろうとたくさんの見物客でにぎわった

「サワフジ」

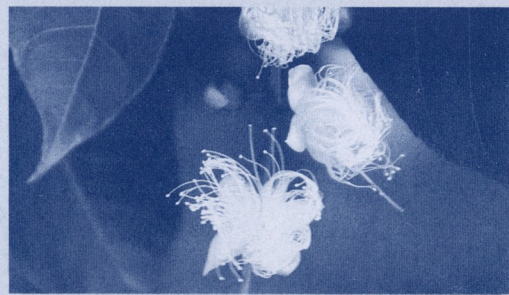


△内間御殿とサワフジ

▽サワガリバナ科の常緑高木のこと。▽アフリカの東海岸から東南アジア、太平洋地域の広い範囲に分布し、日本の北限は奄美大島。海岸の低湿地やマングローブの生えている背後の湿地、内陸の河川沿いの湿地に生育し、よく群生するといわれています。▽葉の長さは二十から三十センチになり縁にはノコギリのようなギザギザがあり、枝先に固まってついています。夏頃に、葉腋から五十から六十センチの穂状の花序が下に垂

れ、夕刻から夜間にかけて数珠のようにたくさんの花をつけるさまは、とても美しいものです。一つひとつの花に雄花が多数あり、最初は白色で後からほんのり紅色に変化します。雌花も紅色で非常に美しいが、花は一晚で散ってしまいます。花の香りに引き寄せられてハチやガが飛来し蜜を吸うのが見られます。▽樹皮と果実に毒があり、魚毒として魚をとるときに用いたという話もあるれば、若葉と果実を食用したという話もあります。また、むかし八重山諸島でこの木を互いに擦り合わせて発火する道具として使用したともいわれています。

▽西原町字嘉手苅のフクギの大木に囲まれた内間御殿の敷地内にあるサワフジは、樹齢四百五十年といわれる古木で、県内のサワフジではおそらく最長寿と思われる。むかしは、この近くまで海であったため、湿地帯を好むサワフジが長らく生育しているのではないかという人もいます。幹の太さは約二メートル、高さ約六メートル、枝を広げ



△サワフジの花(夕方から夜間にかけて咲く)

さわふじ鑑賞会と宿泊交流会

— 西原東児童館 —

西原東児童館では、七月二十九日から一泊二日で、さわふじ鑑賞会と宿泊交流会を行いました。

これは、夏休みを利用して、夜に咲くサワフジを観賞しようという企画されたもので、児童十六人が参加。児童厚生員のおねえさんたちと一緒に、カ

レーライスを作ったり、さわふじと内間御殿についての由来を勉強したり、さわふじの花の観賞や胆だめしなど盛りだくさんの内容で行われました。

この宿泊交流会の目玉は、町役場町史編集係長の波平常則さんを講師に招いての「さわふじと内間御殿」のお話で、子どもたちは、熱心に聴き入っていました。講師の波平さんが身振り手振りを交え、かつて内間御殿に住んでいた金丸(＝尚円王、第二尚氏王統の始祖)の王になるまでの波瀾万丈の生い立ちや内間御殿の敷地内に咲く樹齢四



△「うわあ、カワイイ」、「きれい」と子どもたちも大喜び。

自動車点検整備促進運動
(9～10月)

9月9日(土)午後6時 小那覇公民館前広場「小那覇十五夜村遊び」で54年ぶりに組踊を上演(町民のみなさんの多数のご来場をお待ちしております。小那覇伝統芸能実行委員会)



△ジュニアピースメッセンジャーへの団員認定証交付式のもよう

心に築こう“平和の礎”

平和の特使に認定証

―第八回西原町平和交流事業(ジュニア・ピース・メッセンジャー'95)―

平和交流のため、町内の

月二十一日午前、町役場二階会議室で行われました。

認定証交付式では、平安恒政町長が十名の団員一人ひとりに認定証を手渡し、「ヒロシマ、ナガサキといった被爆地を訪れることは、みなさんの人生にとって貴重な糧となると

思います」とあいさつし、生徒代表の沢嶋昌一郎さん(西原中二年)が「平和とは、戦争とは何なのかを、一生懸命学び、伝えていきたい」と決意表明しました。

泊四日の日程で派遣されました。今回は、被爆地の長崎市(長崎県)を訪れ、原爆や戦争の実相を学ぶほか、八月九日の平和式典への参列、国内はもとより東南アジアやアメリカ合衆国などから七団体が参加する「青少年ピースフォーラム」への出席など多方面にわたり戦争、核について学びます。

中学二年生を“特使”として派遣する第八回西原町平和交流事業

西原町は、去った大戦で当時の住民約半数ちかくを失うという県内でも有数の犠牲者を出した教訓を生かし、昭和六十年に非核反戦平和都市宣言をしています。これまでに平和駅伝、平和コンサートの開催など様々な平和事業を行ってきました。このジュニアピースメッセンジャーの派遣もその一つ。

また、松川邦雄団長(西原東中学校校長)が「ジュニアピースメッセンジャーは、沖縄から平和のメッセンジャーを持って行くというのと、次代へ平和のメッセンジャーを語り継いで行くという二つのメッセンジャーとしての役割があると思います」とあいさつし、生徒代表の沢嶋昌一郎さん(西原中二年)が「平和とは、戦争とは何なのかを、一生懸命学び、伝えていきたい」と決意表明しました。

交付式に引き続き事前研修会が行われ、沖縄戦や西原町の戦時状況、被爆地ナガサキなどについて事前学習しました。

なお、八月七日には出発式が町役場で行われ、十人が三

研修会が、七

つてきました。このジュニアピースメッセンジャーの派遣もその一つ。

また、松川邦雄団長(西原東中学校校長)が「ジュニアピースメッセンジャーは、沖縄から平和のメッセンジャーを持って行くというのと、次代へ平和のメッセンジャーを語り継いで行くという二つのメッセンジャーとしての役割があると思います」とあいさつし、生徒代表の沢嶋昌一郎さん(西原中二年)が「平和とは、戦争とは何なのかを、一生懸命学び、伝えていきたい」と決意表明しました。

なお、八月七日には出発式が町役場で行われ、十人が三

戦争の恐ろしさ、平和の尊さを次代へ伝えよう

―上原区民戦時避難追体験ツアー―

上原自治会(大城盛廣会長)

治会で初めて取り組んだもので、西原町が認可した地域自治活動推進地区指定補助事業の一環として行われました。

町、大里村、南風原町、玉城村、具志頭村、糸満市にまたがる避難ルートをとりました。

銘された親族の名前を確かめると涙を流すお年寄りもいました。

は、沖縄戦中に区民が避難した足跡をたどり、戦争の悲惨さ、平和の尊さを子や孫へ語り継ごうと、七月二十三日、「上原区民戦時避難追体験ツアー」を実施しました。

これは、同自治会が戦後五十年記念事業として町内の自治会

なかで闇に包まれる体験をし、子どもたちも身をもって恐怖を感じているようでした。平和祈念公園では、「平和の礎」で献花の後、礎に刻

銘された親族の名前を確かめると涙を流すお年寄りもいました。

語り継ごうと、七月二十三日、「上原区民戦時避難追体験ツアー」を実施しました。

これは、同自治会が戦後五十年記念事業として町内の自治会

なかで闇に包まれる体験をし、子どもたちも身をもって恐怖を感じているようでした。平和祈念公園では、「平和の礎」で献花の後、礎に刻

銘された親族の名前を確かめると涙を流すお年寄りもいました。

これは、同自治会が戦後五十年記念事業として町内の自治会

なかで闇に包まれる体験をし、子どもたちも身をもって恐怖を感じているようでした。平和祈念公園では、「平和の礎」で献花の後、礎に刻

銘された親族の名前を確かめると涙を流すお年寄りもいました。

銘された親族の名前を確かめると涙を流すお年寄りもいました。

これは、同自治会が戦後五十年記念事業として町内の自治会

なかで闇に包まれる体験をし、子どもたちも身をもって恐怖を感じているようでした。平和祈念公園では、「平和の礎」で献花の後、礎に刻

銘された親族の名前を確かめると涙を流すお年寄りもいました。

銘された親族の名前を確かめると涙を流すお年寄りもいました。



△糸数壕では実際に中に入って闇を体験(写真提供:上原区)

平和の意義を正しく伝えよう

—西原町第八回親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアー—

戦争の悲惨さや無益さを学び、平和の尊さについて親子で実地で学習しよう—と「第八回親子で学ぶ戦争追体験平和バスツアー」が、七月二十八日に実施されました。主催は町(平安恒政町長)と町教育委員会(稲福恭助教育長)。

平和バスツアーには、約百三十人の親子が参加、大型バス三台に分乗し、西原の塔や宜野湾市の嘉数高地、佐喜真美術館、嘉手納町のサンパウロの丘、読谷村の渡具知海岸、シムクガマ、チビチリガマなどを見て回りました。

西原の塔では、戦没者の冥福を祈る一分間の黙とう、献花を行い、西原の戦闘状況等

についての説明を受けました。また、佐喜真美術館では、館長の佐喜真道夫さんから館を代表する「沖縄戦の図」な

どについての説明がありました。

嘉数高地(宜野湾市)やサンパウロの丘(嘉手納町)では、広大な米軍基地・飛行場を目のあたりにし、基地オキナワを実感しました。

読谷村では、泉川良彦さん

(読谷史編纂室)を講師に、米軍上陸の地である渡具知海岸で説明を聞き、シムクガマ、チビチリガマでは実際に壕の中に入って追体験し、平和の思いを新たにしました。

森田淳子さん(字翁長)は「沖縄に住んでいてあまりにも沖縄について知らなかった。チビチリガマでは、あんな暗い小さな中に大人たちに交じって八十人もの子ども

ちが身を潜めていたかと思うと涙が出て止らなかった。これからも、私たち戦争を知らない世代の親や子どもたちのために、平和について考える機会として参加型の企画をお願いします」と、参加しての感想を述べていました。

夏にひと皮むけた子どもたち

—少年少女リーダー学級が終了—

七月二十一日から八月二日まで、平成七年度少年少女リーダー学級が開催されました。

地域の子ども会、スポーツ少年団から推薦された

生徒を地域活動のよきリーダーとして育成しようと毎年開催されているもので、今年は四十四名が参加、リーダーの心得、ボランティア体験学習(車イス・アイマスク体験)、野外活動などを楽しみ学習しました。



△野外活動のもよう(少年少女リーダー学級)

『老いて若く生きる』—文教大学が開校—

「老いて若く生きる」をテーマに生涯学習に取り組む文教大学が始まり、七月十七日午後、町社会福祉センターで開校式が行われました。

これは、町教育委員会(稲福恭助教育長)と町老人クラブ連合会(与那嶺誠二会長)が主催して毎年行っているも



△熱心に講義を受ける文教大学生たち

ので、町内在住の六十歳以上ののお年寄りを入学対象とし、本年度は八十一人が入学。各方面から講師を招いて、十月十四日まで全八回にわたり学びます。

与那嶺町老連会長は「元気に老後を過ごすためには、体はもろろん頭の体操も必要です。何か一つでも身につけるようしっかりと学習しましょう」とあいさつしました。

開校式に引き続き、さっそく行われた第一回目の授業では、「高齢者福祉の充実」と題して平安恒政町長が方言を交えて講演。「単に長生きするだけの“長命”でなく、元気に長生きする“長寿”となるよう心身の健康は自分でつくろう」と述べました。

おわびと訂正

○広報にしはら8月号(第282号)4頁「第15回町青少年健全育成町民総決起大会」で、下記のとおり氏名に誤りがありました。「▷宮良裕次」は「▷宮良祐次」、「▷岸本三津子」は「▷岸本美津子」、「▷砂川幸之介」は「▷砂川幸之助」の誤り。それぞれおわびして訂正します。



△北海道側からかわいい牛も登場してソーラン節を披露

南北の青少年がふれあい交流

—北海道・沖縄県ふれあいの翼—

「北海道・沖縄県ふれあいの翼」で沖縄を訪れた北海道の児童・生徒らが、7月29日、西原町の民家で宿泊し、交流を深めました。

西原町(平安恒政町長)では、同日の午後、町中央公民館で、北海道の児童・生徒らと西原町の家族との対面式を行いました。

これは、南北両地域の相互理解と交流を促進するとともに、次代を担う青少年の資質の向上と健全育成を図ろうと行われたもの。北海道・沖縄青少年派遣交流実行委員会が主催。

北海道からは、団長団5人、青年リーダー4人、中・高校生各4人ずつの8人、小学5・6年生32人の計49人が派遣されました。

対面式では、ふれあいの翼団長の井坂紘次郎さん(北海道生活福祉部長)が「互いに実りの多いものとなるように祈念しています」と訪問のあいさつを述べたのに対し、平安町長は「いろいろな体験をし、たくさんの思い出をお土産に持ち帰ってください」と歓迎のあいさつを述べました。

双方の記念品交換後、アトラクションとして、西原町からは子ども三線と子ども琉舞、北海道からは道南口説、ソーラン節など両地域の代表的な芸能が披露されました。

引き続いて行われた民泊引き渡し式で、各民泊家庭と子どもたちが対面、男女別に20軒の民家に分かれ、西原町の家庭で楽しく一夜を過ごしました。

一行は、西原町で一泊したあと、県内各地を回り、首里城や紅型工房の見学、マリンスポーツを体験し、8月2日に北海道へ帰りました。



△好評を博したキリ短ボランティアサークルの人形劇

両児童館が「児童館フェスティバル」を開催

西原児童館・西原東児童館(平安恒政館長)は、7月15日午後、西原東児童館で、「児童館フェスティバル」を開催、大勢の子どもたちでにぎわいました。

これまで西原児童館では、毎年「児童館まつり」を行っていましたが、西原東児童館が昨年開館したことから西原東児童館の開館1周年記念と両児童館の交流を兼ねて、今回「児童館フェスティバル」として開催しました。

会場となった東児童館内には、ボウリングコーナーやキーホルダー作りのコーナー、バザーコーナーなどたくさんのコーナーが設けられ、どこも子どもたちで大盛況でした。また、布で作った絵本の展示やひなまつり会などの児童館活動の紹介、母親クラブの活動紹介などもあり、訪れた親子連れを楽しませていました。

特に、沖縄キリスト教短期大学ボランティアサークルによる人形劇の公演は人気で、子どもを連れてきた親も一緒になって観劇(感激!)していました。

なお、来場者には飲み物やわたしがしが配られ、喜ばれていました。



△ホームランを狙ってボールをキック

キックベースボールでスポーツ交流

西原町青少年健全育成協議会(平安恒政会長)は、8月4日午前、町陸上競技場で、平成7年度町青少年スポーツ交流大会(キックベースボール)を開催し、10チームが参加しました。

これは、スポーツをとおして町内の児童生徒の協調性、団結心を培い、青少年健全育成と相互の交流を図ろうと企画されたもの。町内の小・中学生を対象に、女子2人を含む1チーム9名で行政区ごとにチームをつくり試合を行いました。

キックベースボールを体験するのは、ほとんど全員が初めてとあって、珍プレー、迷プレーが続出。「野球と似てるけど、難しいなあ」、「サッカーみたいで面白い」と参加した子どもたちの感想もさまざま。

なお、結果は次の通り。

▷1位—平園 ▷2位—美咲 ▷3位—兼久



△町役場玄関に国勢調査実施本部の看板を掲げる平安町長ら

国勢調査実施本部を設置

—10月1日から国勢調査がはじまります—

町(平安恒政町長)では、平成7年国勢調査の総合的・効率的な業務の運営を図ろうと、7月18日、「平成7年国勢調査実施本部」(本部長=平安町長)を設置、看板を町役場玄関に掲げました。

平安本部長は、「国勢調査は、住みよい国づくり・まちづくりを進める際の基礎数値となる国の最も基本的な統計調査です。事務局を中心に、調査員と連携をとりながら同調査の円滑な推進をお願いします」とあいさつしました。

なお、西原町は前回(平成2年)国勢調査人口が25,489人で、平成7年7月末現在の住民登録人口が28,728人となっております。

ま
ち
の
話
題



△道路や河川等の清掃作業のもよう

やっぱりきれいは気持ちいい

—道路排水愛護デー—

町(平安恒政町長)では、7月17日、町内各自治会や事業所、婦人会などと共同して、道路や河川、海浜の草刈りや清掃作業を行いました。

これは、平成7年度の道路排水愛護デーの運動として行われたもの。県道内間～小那覇線、小波津川準用河川、兼久の海浜、県道38号線など4カ所を、かまや草刈り機を手に、大勢の人々が、伸び放題の雑草をきれいに刈り取りました。



△最優秀賞を受賞した玉那覇静子さん

玉那覇さんが最優秀賞に

—平成7年度町婦人の主張大会—

西原町婦人連合会(城間民子会長)は、8月6日午後、町中央公民館で、平成7年度町婦人の主張大会を実施し、3人が意見発表しました。

これは、自らの経験を踏まえた意見を発表しあうことで、婦人の社会的視野を広げることと、互いの連帯を深め、地位向上と地域発展に寄与しようといわれているもの。

審査の結果、「愛和な家庭を目指して」の演題で姑への感謝と愛情を発表した小那覇支部の玉那覇静子さんが最優秀賞を受賞、8月27日に行われる中頭郡大会へ町代表として出場することになりました。

なお、意見発表者と演題は次の通り(敬称略)。

▷【最優秀賞】玉那覇静子(小那覇支部)・「愛和な家庭を目指して」▷【優秀賞】澤岬米子(翁長支部)・「老夫婦の人生行路」▷仲松靖江(内間団地支部)・「福祉の場で思うこと」



△通算9度目の九州王者に輝いた西原東中男子バレーボール部

東中バレーボール男子、通算9度目の九州王者に

西原東中学校男子バレーボール部(仲本賢一郎監督)が、佐賀県で行われた1995年度九州中学校体育大会で優勝、昨年夏、今年春について九州大会3連覇、春夏通算9度目の九州王者に輝きました。

同バレーボール部は、8月14日午前、松川邦雄校長、仲本監督とともに町役場を訪れ、優勝報告をしました。仲本監督は「勝つという執念と集中力が持続したのが勝因。(全国大会でも)優勝を目指し、一つひとつ勝ち進んでいきたい」、松川校長は「生徒たちの頑張りはもちろん、父母会やPTA、地域住民の方々、町人材育成会など、みなさんのお陰です」とそれぞれお礼の気持ちを述べました。

報告を受けた平安恒政町長は「優勝でつかんだ自信を生かし、九州代表として頑張ってください」と激励しました。

また、同日午後、西原東中学校体育館で、同校女子卓球部の九州大会の報告会を兼ねた同バレーボール部を激励する壮行会があり、選手たちも全国大会での健闘を誓っていました。

同バレーボール部は、15日午前、茨城県で開催される全国大会に向けて出発しました。

社会をより明るくする一人一人の心

西原小学校6年 西原芳美

私たちの社会では、最近、あまり良くないニュースが飛びかっていると思います。

『オウム関係』のニュースや『飛行機ハイジャック事件』など、これが普通の人間がすることかと思うようなおそろしいことがおきています。

私は、そんな事件が社会を暗くしていく一つの原因だと思います。

明るく住みよい社会にするために、どうしたらいいか、私が考えるまず第1番目の対策は、“緑や花をふやすこと”です。もっと市町村に緑や花をふやした方がいいと思います。緑や花は、見る人の気分をやわらげ、やさしい気持ちにしてくれる働きがあります。自然の木や花を大事に育てているうちに、生き物の生命の大切さがわかってくると思います。例えば、自分は気分が悪いとします。そんな時、青々としげっている木を見ると、なんだか気分がおちついて少しは良くなるのではないのでしょうか。

第2番目に、『ちりやゴミをなくす』ことだと思います。シンガポールの国では、ちりが一つもおちていないそうです。その理由は、みなさんも知っていると思いますが“ばっ金をとる”からです。もちろん、そうでない人達もいると思いますが……。でも私は、そういうばっ金できれいにした道や公園ではなく、私達が自分自身できれいにした、道や公園をふやしていけたらいいなと思います。

第3番目に、安心してくらせる環境をつくることだと思います。いくら生活が便利でも、周りにはいきガ스가あったり、酸性雨が降ったりしたら、安心して暮らせません。

スウェーデンには、きれいですき通った湖がたくさんあるそうです。たとえば、ある湖。その湖は、とてもすき通り、心があらわれるようですが、それは外見だけで、実は、その湖は、酸性湖、別名死の湖だといわれているそうです。酸性であるため、魚一ぴき、水草一本だって育たないというのですから、すごく恐ろしくなってきます。

そんな、湖や川を作らないためにも、いろいろ、自然や環境にも気を使っていきたいと思います。こうして、今、私達のまわりには、多くの問題があります。そして、これだけのことを解決するには、長い年月が必要だと思います。

いろいろ面から社会をよくしていくことについて調べましたが、でもやっぱり、一番大切だと思うのは、一人一人を思いやる気持ちだと私は、思います。

もし、それができるんだったら、『オウム関係』のニュースや、『ハイジャック事件』のような事もおこらないと思います。一人一人がいつでも相手の立場にたって考えてあげることができたら、いじめもなくなり、みんなが楽しくくらしていけると思います。

『自分さえよければ』『自分が楽しければ』という自己中心の考えをなくしていくことが、大切だと思います。

私は、この作文を通して、いろいろな社会の事を考える事ができて本当によかったと思います。

(平成7年度「社会を明るくする運動」普天間保護区社明大会意見発表から)

平成七年度社会を明るくする運動を開催 — 普天間保護区社明大会 —

平成七年度「社会を明るくする運動」普天間保護区社明大会が、七月二十日午後、町中央公民館で開催されました。

「ふれあいと対話が築く明るい社会」をスローガンに開催された同大会は、七月の強調月間に全国的に展開される「社会を明るくする運動」の

一環として行われたもので、今年で四十五回目。

大会は、比嘉守盛保護司会会長による主催者あいさつ、

平安恒政町長による実施市町村あいさつ、砂川光顯那覇保護観察所長、富春治町議会議長の来賓祝辞、作文標語の表彰式、意見発表、アトラクシ

ョン、次期開催市町村長あいさつの順で行われました。

なお、作文・標語の表彰受賞者は次の通り。

【作文】▽西原芳美(西原南小学校六年)▽新里祐美子(西原東小学校六年)▽田島あゆみ(西原小学校六年)▽花城あゆみ(西原東中学校三

年)【標語】▽伊川絃子(坂田小学校五年)▽安里健(西原東小学校六年)▽与那嶺美幸(西原東小学校六年)▽伊集美伸(西原東中学校一年)▽根川智好(西原東中学校一年)▽新垣牧(西原東中学校

親子がライバル！ 親子で九州ブロック国体に出場

—上原拓也、将也さん親子—ソフトテニス—

ソフトテニス(軟式テニスの正式名称)で、九州ブロック国体に、親子で出場する話題の上原親子を訪ねました。

話題の親子は、宇小橋川の上原拓也さんと次男の将也さん。お父さんの拓也さんは、ソフトテニス歴三十七年のベテランで、これまでに数々の輝かしい成績を収め、県内ソフトテニス界で知らぬ人はいないほどの実力者で、九州ブロック国体のソフトテニス成年二部(四十五歳以上)に出場します。次男の将也さんは、父親の影響で小学校四年生からソフトテニスを始め、このたび国体県予選(三次予選)

で、インターハイ(全国高校総体)出場ペアを下した実績が認められ、ペアの知名定之さんとともに、今回初めて九州ブロック国体出場となりました。

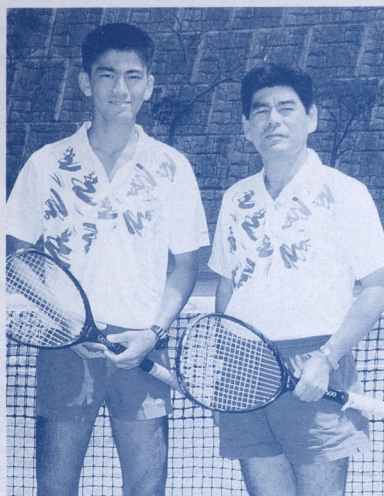
九州ブロック国体出場についての抱負を伺うと、「夢は大きく全国制覇を目標に。まずは、九州ブロック制覇を」(拓也さん)、「本国体出場を目指したい。サーブで主導権を握り、自分たちのゲーム展開に持ち込みたい」(将也さん)という頼もしい返事でした。

なお、上原一家は、お母さんの恵子さん、長男直輝さん、長女あすかさんと家族全員が

ソフトテニスを楽しみ、それぞれ県親子大会の決勝で対戦するほどの腕前をもつソフトテニス一家です。

「いつの日かふたりが親子でペアを組んで、国体で優勝する日がくるかも」とという質問に、「そうなるといいですね」(次男将也さん)、「いや、まだまだ」(拓也さん)と応えた上原親子。照れながらもお互いを見つめるまなざしは優しく、親子でありながらライバルとしての厳しさを持ち合わせる理想的な関係を感じさせてくれました。

九州ブロック団体での健闘を祈っています。がんばれ！



△親子で九州ブロック国体に出場する上原拓也さん(向かって右)、将也さん(同左)

プロフィール

父 上原拓也 1949年6月生、46歳。右利き。9歳からソフトテニスを始め、中学2年の県新人大会優勝以来、県大会などで数多く優勝。

子 上原将也 1977年7月生、18歳。左利き。拓也さんの次男。小学校5年生のとき、県代表で全小生大会に出場。高校1年生のとき、インターハイ(全国高校総体)に県代表として出場。高校2年生のとき九州高校新人大会で4回戦(ベスト16)まで進む。

町史だより
—No.5—

くおてんと様をみるく

季節は立秋を過ぎたけれど、沖縄の暑さはまだまだというところ。太陽を仰ぐと、そのまぶしさに目が眩みます。

先人達は、そんな太陽の光から時を読みとっていた。そんな話を取り上げてみます。

幸地部落の南側・アドベンチストメデイカル病院のすぐ側に、刻時森と呼ばれる小高い丘(標高百四十二メートル)があります。ここは、尚敬王の時代(一七一三年—一七五

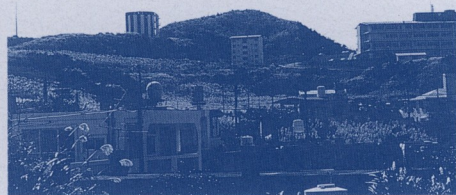
六年)に、蔡温がこれまでの不完全な漏刻の法を改正するため、日影を観測させた場所なのです(『球陽』尚敬王二十七年条)。観測には王府の役人・小波津里垣のほか、地元の人々もその役目をつとめていました。その人は後に「時外間」と呼ばれ、地元幸

地にはその人物についての言い伝えが残っています。観測は一七四〇年二月から翌一七四一年十月までの一年八ヵ月あまりにわたって行われ、刻時森頂上に日影台と漏刻桶を造り、その関係から正確な時を測る方法を得たのです。その後、観測所は首里城の漏

刻門に移されました(※西原町史第四巻資料編三 西原の民俗百十二頁)。

現在の刻時森には、当時の遺構として頂上部に三メートル四方の削平された平場があり、そこへ上る上り口も取り付けられています。ここからの眺めは、中城湾がよく見渡せ、太陽の観測には絶好の場所となっています。

その昔、先人達は太陽や月・星や風といった大自然から知識を得、様々な法則を導きだしてきました。現代の私たちにも大自然の法則が体感できるかどうか、皆さんも腕時計をはずしてためされては？誰です、腹時計なら自信がある、なんていう人は。



△現代にたたずむ刻時森

フエナス・タルデス

(南米からこんにちは!)

―第六回西原町南米移住者子弟研修生歓迎激励会―

平成七年度西原町南米移住者子弟研修生の歓迎・激励会が、七月二十六日午後、西原共同福祉施設で開催されました。

歓迎・激励会では、研修生紹介、平安恒政町長による主催者あいさつ、富春治町議会議長の激励あいさつ、研修生の研修受入機関と講師の紹介などが行われました。

今年度の研修生は、仲宗根アルベルトさん(ペルー)と大城シルビアさん(アルゼンチン)の二人。アルベルトさんは、字翁長出身の仲宗根健一さん(二世)を父親に持つ三世で、広告デザインと日本語・日本文化を学びます。シルビアさんも三世で、父親が字仲伊保出身の大城アンヘルさん(二世)。グラフィックデザインと日本語・日本文化を学びます。研修期間は六ヵ月。

平安町長はあいさつの中で「終戦で沖縄全体が物心両面で困難な時期に、ハワイや南

米へ移住した方々から多大な援助をしていただいたお陰で今日の繁栄があります。そのご恩返しになればと言う気持ちと南米各町人会からの要請で始まった本事業が、研修生二人にとって、実り多い研修となるよう祈念しています」と述べました。

二人とも「将来は、広告デザイン会社を設立するのが夢」で、「研修の成果を持ち帰り、南米町人会とのかけ橋となるよう頑張りたい」と抱負を述べてくれました。



△向かって右から仲宗根アルベルト(ペルー)、平安町長大城シルビアさん(アルゼンチン)

＝在アルゼンチン西原町人会からの手紙＝

その1

フリーオさんが里帰り

在亜西原町人会(大城盛徳会長)では、彫刻家の呉屋フリーオさん(字呉屋出身の呉屋善徳さんの次男)が、7月30日に、家族面会のため十年ぶりで帰国した機会をとらえ、懇談会を行いました。フリーオさんは、彫刻を勉強するため、1985年に単身沖縄を訪れ、沖縄の伝統文化の素晴らしさに魅せられました。その後、久田玲子さんと結婚、そのまま沖縄に落ち着き、いまでは2児のお父さん。

在亜西原町人子弟学士の中から彫刻家となったのは、宇津花波出身の與那嶺英徳さんの長女クリスティーナさんに続いてフリーオさんが2人目。言語を始めとするさまざまな壁を克服しながら、現代国際彫刻展に出品し、優秀賞を受賞するなど今後の活躍が期待されています。

その2

玉那覇義明さんが
在亜沖連の会長に

5月25日に開催された在アルゼンチン沖縄県人連合会(沖連)定期総会で、在亜西原町人会推薦理事の玉那覇義明さん(字小那覇出身、67歳)が、沖連第40代会長に就任しました。

玉那覇さんは、1935年の南郷体育クラブ創立に関わり、初代部長としてスペイン語の分からない多くの青年移住者のために尽力したり、体育や日亜文化交流に手腕を発揮しました。同クラブは、後に沖連青年部と名称を変え、玉那覇さんは引き続き沖連の理事として通算10年間にわたり貢献、このたび今年度の会長となりました。

新会長となった玉那覇さんは、「今後は、県人子弟や全日系人のために、運動場うるま園の水泳プールとバスケットボールコートの整備を図り、一般に開放したい」と抱負を述べました。

西原町民の皆様 温かいご支援をありがとうございます。

1月17日の震災発生以来、西原町民の皆様から温かい励ましと多くのご支援を頂いてまいりました。心からお礼申し上げます。

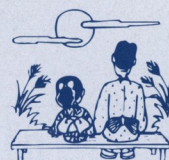
8ヵ月が経ち、神戸市内では復興に向けてのつち音が響き、人々の生活も徐々にではありますが、落ちついた状態に戻りつつあります。

長く険しい道のりではありますが、神戸を今まで以上に魅力ある街としてよみがえらせるよう努力をしてまいりますので、引続きご支援を頂きますようお願いいたします。

平成7年9月

神戸市長 笹山 幸俊

お知らせ
でーびる

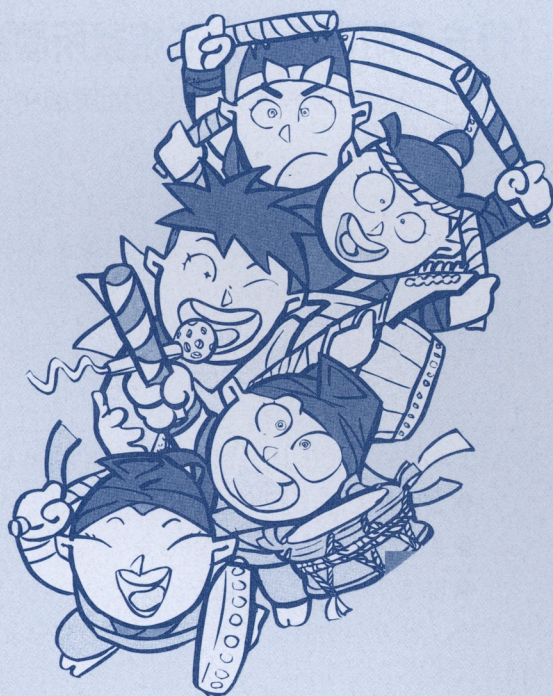


案内・募集

9月

沖縄工芸ふれあい広場開催

1. 主催 沖縄県、沖縄工芸ふれあい広場実行委員会、(財)沖縄県工芸振興センター
2. 開催期日 平成7年9月8日(金)～12日(火) 10:00～19:00
3. 開催場所 沖縄コンベンションセンター 会議場、展示場及び劇場
4. 内容
 - (1) 戦後工芸の歩み 工芸の復興・発展に尽力された先達の足跡を通して、戦後の工芸の歩みを紹介する。
 - (2) 現在の工芸(実行委員会事業) 工芸列島を形成し多彩で華やかな沖縄の工芸品を総合的に展示販売する。
 - (3) 明日の工芸 沖縄の工芸技術を活用したコンペを行い製品開発を促進するとともに、工芸品が生活の中でいづくシーンの設定紹介等をおして生活提案を行う。
5. 問い合わせ 沖縄県工芸産業課 ☎098-866-2770



第2回“はんたましまつり”

☆“はんたましまつり”とは、小字名の坂田升(はんたまし)から命名したものです。

期 日 平成7年9月23日午前10:00～午後9:00まで
場 所 坂田小学校グラウンド、体育館、坂田大通り

イベント内容

- ◎オープニングセレモニー 西原高校マーチングバンドによるパレード。
- ◎坂田小学校グラウンド特設ステージにて
『運玉太鼓、ヒヤミカチ太鼓、ひまわり太鼓、てだこ太鼓』などによる、太鼓祭り。
地元空手道場のみなさんによる『空手演武大会』
一般参加のロックバンドショー。
目玉として、“ふえーし”ライブショー&笑楽過激団バラエティーショー。
- ◎坂田小学校体育館にて
スーパードッチボール大会、バスケットボール 3on3 大会を開催。
- ◎坂田小学校グラウンド回りにて
フリーマーケットを開催します。出店募集中。その他各種出店、屋台。
- ◎坂田大通りにて
通り全体を、イルミネーション、ちょうちん、のぼり、などで飾り付けをしまつりの雰囲気盛り上げる。
通り会会員事業所などで、感謝セール、バーゲンセール、なども行う。

9月23日 第2回“はんたましまつり”(10:00～21:00、坂田小グラウンド・体育館、坂田大通り)

平成8年度 学生募集

1. 募集科及び募集定員

制御技術科：30名 電子技術科：30名 情報処理科：30名
住居環境科：30名 物流情報科：30名 合計150名

2. 受験料

推薦、一般入試とも16,000円

3. 問い合わせ先

沖縄職業能力開発短期大学校 学務課

所在地 沖縄市池原2994-2

電話番号 098-934-6282

中小企業者のみなさんへ

(財) 沖縄県産業振興公社(沖縄県産業情報センター)では、平成5年6月に「省エネ・リサイクル支援法」が施行されるに伴い、中小企業事業団の委託を受け、「エネルギー使用合理化設備導入促進指導事業」を実施しております。

本事業はエネルギー資源の有効活用、地球環境問題への対応、また生産活動においては、エネルギーコストの低減による収益性の向上、更には低利の融資制度も利用できるため、長期的省エネ効果による経営上のメリットも期待できます。

お問い合わせ

(財) 沖縄県産業振興公社・沖縄県産業情報センター

TEL. (098) 861-4145 FAX. (098) 867-2305

保留地処分(土地売却)のお知らせ!

那覇広域都市計画事業上原棚原土地区画整理事業の平成7年度第2回保留地処分の公開抽選を平成7年9月10日(日)、午前10時から西原町社会福祉センター(大広間)で行います。抽選参加申込受付期間は、平成7年8月28日(月)から平成7年9月7日(木)迄です。(なお、詳細はチラシをご覧ください。)

※お問い合わせ先 区画整理課 (☎945-4415)

あなたの企業の時短を支援する 時短奨励金制度のご案内

中小企業の皆さんへ

労働時間短縮支援センター沖縄県支部では、週40時間労働制が猶予されている労働者300人以下の中小企業の時短を応援するために、省力化投資等又は新たな雇入れを行い週所定労働時間を短縮した際に最高375万円の奨励金を支給しています。

時短に取り組む中小企業事業主さんは、積極的にご活用ください。

●支給額

短縮した1週間の所定労働時間数	常時雇用する労働者の数	1～30人	31～100人	101～300人
1時間以上 2時間未満		25万円	75万円	150万円
2時間以上		50万円	150万円	300万円
3時間以上短縮し、かつ週40時間を達成した場合		75万円	200万円	375万円

(注) 既に週40時間労働制が適用となっている金融業・通信業等や、特例措置の対象となっている労働者が9人以下の商業、映画・演劇業、保険衛生業及び接客娯楽業の事業場は支給対象になりませんのでご注意ください。

★時短奨励金制度の詳しい内容については、下記までお問い合わせください。

労働時間短縮支援センター沖縄県支部(沖縄県労働基準協会連合会内)

〒900 那覇市港町2-5-1 トラック研修会館内

☎098(868)2826 FAX098(869)1714

知っておきたい検察審査会 = 検察審査会にご相談を! =

交通事故、詐欺などの被害にあって、警察や検察庁に訴えたが、検察官がその事件を裁判にかけてくれない。どうも納得できない。このような人のために、検察官がした処分が正しかったかどうかを審査する機関として「検察審査会」があります。

あなたの周りに交通事故などの被害にあって悩んでいる人はいませんか。検察審査会はその方々の相談に乗っています。秘密は固く守られますし、相談・申立て・審査等の費用は一切掛かりません。

※詳しいことは、那覇検察審査会事務局(那覇地方裁判所内)

☎098-855-3366(内線260・261)に、お問い合わせください。

『行方不明者をさがす相談所開設』

行方不明者等捜索強化月間実施中

期 間：平成7年9月1日～9月30日

場 所：浦添警察署 ☎875-0110(代)

◎刑事第一課鑑識係 内線234

◎生活安全課 内線252

相 談 内 容

次のようなことでお困りの方は是非ご相談下さい

◆家出したまま行方がわからない

◆音信がなく生死がわからない

◆無縁仏の身元を確認したい

その他、行方不明者をさがしている方にはどんな相談にも応じます。

9 月 (SEP.) 行事・祭事予定

2 日 (土) ○米寿

○少年少女水泳大会 (14:00、西原小学校水泳プール)

4 日 (月) ○三歳児健診 (H4.5.5~H4.5.19 生れ、13:00~
14:15、町社会福祉センター)

6 日 (水) ○離乳食実習 (乳児、13:30、町中央公民館)

8 日 (金) ○平成 7 年度「全国下水道促進デー」広報パレード
(14:30、町役場玄関前)9 日 (土) ○小那覇十五夜村遊び (組踊り) (18:30、小那覇公民館
前広場)○風疹 (中学校 2・3 年生 (男女)、13:30~14:30、
町中央公民館)10 日 (日) ○保留地処分 (土地売却) (10:00~、町社会福祉センター
大広間)

13 日 (水)・14 日 (木)

○敬老祝金支給 (80 歳以上の方に)

15 日 (金) ○敬老の日 (新百歳・百歳以上の方に敬老祝金支給)

17 日 (日) ○町陸上競技大会 (9:00、町民陸上競技場)

19 日 (火) ○子宮・乳ガン検診 (20 歳以上 (女性)、13:30~14:30、
町中央公民館、28 日)21 日 (木) ○1 歳 6 ヶ月児健診 (H6.2.18~H6.2.21 生れ、13:30~
14:15、町中央公民館)

23 日 (土) ○秋分の日

10 月 (OCT.) 行事・祭事予定

1 日 (日) ○運動会 (西原南小、西原東小、西原小)

3 日 (火) ○子宮・乳ガン検診 (20 歳以上 (女性)、13:30~14:30、
町中央公民館、9 日、17 日 24 日)5 日 (木) ○ポリオ (3 か月~47 か月児、13:00~13:45、町中央
公民館、12 日)6 日 (金) ○三歳児健診 (H4.5.20~H4.7.6 生れ、13:30~
14:15、町社会福祉センター)8 日 (日) ○学習発表会 (西原東中学校)
○体育祭 (西原中学校)

(都合により日程変更もあります。)

高齢雇用の継続給付
育児休業給付制度がスタート
(平成 7 年 4 月 1 日)高齢期における賃金収入の低下は、職業生活の継続が困難となり、そのま
ま「失業」に結びつくケースが少なくありません。一方、育児をする労働者の育児休業の取得を容易にするとともに、その後
の円滑な職場復帰を援助、促進する必要があります。こうした方々に雇用継続のための給付を支給することにより、「失業」を
未然に防止し、引き続き『雇用』が継続できるよう支援することを目的とし
た画期的な制度です。

● 高齢雇用継続給付

60 歳から 65 歳未満の被保険者の方が、60 歳時点の賃金月額に比べ、85% 未
満に低下した状態で雇用されている場合に支払われた賃金 25% を限度として
支給されます。

● 育児休業給付

被保険者が満 1 歳未満の子を育てるために、育児休業を取得した場合に支
給され、育児休業基本給付金と育児休業職場復帰給付金の 2 つがあり、休業
中は休業前賃金の 20%、職場復帰後に 5% が支給されます。詳しいことは、管轄のハローワーク (公共職業安定所) へ
ハローワーク那覇: 8 6 9-9 2 5 0
8 6 9-9 2 3 5

電話加入権の公売

町税徴収と滞納町税の円滑な解消のため、差し押さえ中の
電話加入権の公売を実施します。

公売実施日

平成 7 年 9 月 8 日 (金) ※受付 14:00~14:30

西原町役場 2 階大会議室

※印鑑 (認印) を持参して下さい。

詳しいことは、西原町役場税務課へ

☎ 9 4 5-4 7 2 9 (内線 1 4 3)

寄付・香典返し

(ありがとうございます)

▽字翁長二百三十番地、仲宗
根英輝さんが、米寿を記念し
て西原町社会福祉協議会へ二
十万円。▽字小那覇二百六十九番地、
西原自動車サービス (呉屋博
義社長) さんが、開催したフ
リーマーケットの収益金を一
般寄付として西原町社会福祉
協議会へ一万八千二百九十円。
▽字与那城二百七十七番地の
六、狩俣幸男さんが、故母マツ
さんの香典返しとして西原町
社会福祉協議会へ十五万円。
▽字小波津三十九番地、呉屋
ツル子さんが、故夫盛五郎さ
んの香典返しとして西原町老
人クラブ連合会へ五万円。

自己血輸血

輸血による免疫反応や感染
症などを防ぐため、他人の血
液ではなく、自分の血液を用
いる輸血方法。厚生省の「輸
血療法の適正化に関する検討
会」の報告では、緊急を要し
ない、あらかじめ輸血の予定
がたてられる手術など、いく
つかの条件が満たされた場合、
自己血輸血を勧めています。輸血の方法としては、①術
中自己血輸血②術前自己血輸
血③凍結保存自己血輸血があ
ります。採血した自己血は、
血液製剤保管管理マニュアル
に従って輸血部門に保管し、
病棟などでは保管しないこと
になっています。血液は、セ
氏四六度で保存されます。政府は日本赤十字社に対し
て、血液センターが医療機関
から自己血輸血の実施・協力
を求められた場合の留意点を
通知しています。そして、自
己血輸血の推進について積極
的な協力を要請してきました。
これを受けて、日本赤十字
社では平成五年に「自己血
輸血協力要綱」を作成し、医
療機関からの要請に協力して
います。

10月1日(日)は 国勢調査の日です。

10月1日、全国一斉に国勢調査が行われます。国勢調査は、大正9年から5年ごとに行われ、16回目に当たる今回は、21世紀の日本を考える基礎資料の提供という特に重要な意味があります。調査の結果は、国や都道府県・市区町村が、これからの行政を考えていく大切な資料となり、私たちの暮らしのさまざまな分野で活かされていきます。

赤ちゃんからお年寄りまで日本に住んでいるすべての方が調査の対象となります。

9月下旬から、世帯ごとに調査票を配布します。アパートなどに一人暮らしの方、下宿している方、一人ひとりご記入ください。調査票にある項目は17。お答えいただいた内容は、統計以外の目的に使用することは法律で固く禁じられています。安心してご記入ください。調査票は後日、調査員が集めに伺います。外出がちな方は家にいらっしゃる日をお伝えください。皆様のご協力をお願いいたします。



センサスくん



国勢調査

平成7年10月1日(日)

総務庁統計局 沖縄県

とらえよう 日本の鼓動を 数字から

写真を探しています！

沖縄戦終結から五十年、本町は、沖縄戦で住民の約半数が犠牲になりました。廃墟の中から立ち上がり、血の滲む努力をしたお陰で今日の「文教のまち西原」の発展があります。

終戦から五十年の間には、いろんな分野で様々な変化があります。例えば、住宅建設。終戦後の収容所から西原に移動した当初はテント小屋、その後、茅葺やトタン葺、瓦葺、鉄筋コンクリートと変遷しております。

今回の写真は、字棚原の伊波精吉さんが撮影した写真ですが、大人から子供まで一緒に茅を葺いて茅葺家を建てている当時の様子が



たとえばこんな写真

字棚原の茅葺き風景

よくわかると思います。

西原町史編集事務局では、『写真集にしはら』編集に向けて、西原町民の生活の様子がわかる写真を探しています。

このような写真がありましたら町史編集事務局まで御一報お願いします。

西原町史編集事務局

電話 九四六―九八四六

担当 波平

わたしたちは、時間を守り すすんであいさつをしましょう。(町民憲章)